

景観まちづくりの取り組みへの参加と景観意識 の関係

町野 香歩¹・森田 哲夫²・木之下 僚太郎³

¹ 学生会員 前橋工科大学大学院 工学研究科建設工学専攻 (〒371-0816 群馬県前橋市上佐鳥町 460)
E-mail: m2216005@maebashi-it.ac.jp

² 正会員 前橋工科大学 工学部環境・デザイン領域 (〒371-0816 群馬県前橋市上佐鳥町 460)
E-mail: tmorita@maebashi-it.ac.jp

³ 学生会員 前橋工科大学大学院 工学研究科建設工学専攻 (〒371-0816 群馬県前橋市上佐鳥町 460)
E-mail: m2116004@maebashi-it.ac.jp

景観まちづくりには「まちと暮らしに愛着と誇りが持てる」(国土交通省)という意義があり、地域愛着の向上は地方人口の減少を防ぐことにつながると考えられる。既存研究より、地域愛着があるほど地域活動へ協力的であることが分かっており、本研究では地域活動である景観まちづくりに参加している人ほど、景観意識が高いという仮説を立証することを目的とする。

研究対象地域は群馬県みどり市とし、「みどり市の景観まちづくりに関するアンケート調査」を用いて分析を行う。現在取り組んでいることがあり、参加意向が高いと回答した人のうち景観への関心がある人の割合は 8 割を超える結果となった。したがって、景観まちづくりへの参加意向が高い、実際に景観まちづくりに参加している人ほど、景観への関心度が高いことが分かった。

Key Words: *landscape city planning, participation, landscape consciousness,*

1. はじめに

(1) 研究の背景

景観まちづくりとは、「それぞれのまちや地域が、住民ひとりひとりの資産となり、次々に引き継ぐに値する魅力的なものとなるよう、行政や住民・事業者等が協働して行う取り組みであり、取り組む人たちにとってもやりがいのある魅力的なもの」と国土交通省¹⁾によって定義されており、その地域への愛着を持つうえでも非常に大切な役割を担っている。地域愛着の獲得は地方人口の減少を防ぐことにもつながるため、景観まちづくりへの参加は様々な地方問題解決の一助となることも考えられる。本研究で景観まちづくりの参加と景観意識の関係を探ることで、景観まちづくりに取り組む人が増加することによる景観意識の向上に着目することとする。

(2) 研究の目的

本研究では、景観に対する意識の違いと景観まちづくりへの参加の関係を探ることが目的である。景観まちづくりに参加している人、参加意欲が高い人ほど景観に対する意識が高いという仮説を立て、「みどり市の景観ま

ちづくりに関するアンケート調査」を用い検証する。

(3) 既存研究と本研究の位置づけ

西村、中島らの既存研究²⁾では景観意識には 5 段階あり、景観意識の最も高まる最終段階になると住民は自ら景観の大切さを発信すると述べられており、研究の背景より景観の大切さを発信する行為は景観まちづくりと捉えられる。現時点で既存研究ではそれらを提案したもののみとなっているため、本研究では景観意識と景観まちづくりの関係についてアンケート調査を行い、多変量解析をすることによって、定量的に分析していく。また、鈴木、藤井らの研究³⁾では地域愛着があるほど地域活動へ協力的であると述べられている。主に上記の 2 つの既存研究より、本研究では景観まちづくりの取り組みに参加している人ほど、景観意識が高いという仮説を検証する。概念図を図-1 に示す。

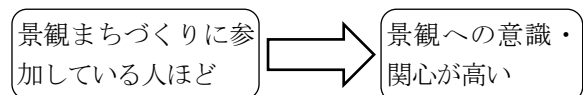


図-1 景観まちづくりへの参加と景観意識の関係

(4) 研究の構成

研究の目的、既存研究との位置付けを検討し、研究対象地域の現況分析を行う。次に研究方法を定めアンケートを実施し、集計を行う。そして、アンケートを多変量解析により分析し、最終的に景観まちづくりの参加状況と景観意識の関係を明らかにする。

2. 研究方法

(1) 研究対象地域

研究対象地域は群馬県みどり市とする。同市は 2021 年 4 月 1 日に景観行政団体となり、同年の 6 月 30 日に「みどり市景観計画」を策定し、景観への取り組みが積極的になされている。そこで、行政による取り組みと住民との意識に関係を見出すことができると考えたため対象とした。

(2) 調査方法

分析には群馬県みどり市が実施した「みどり市の景観まちづくりに関するアンケート調査」を用いる。アンケート調査では、現在の景観への満足度、景観まちづくりの取り組みへの参加、の景観まちづくりが調査されている。

(3) 分析仮説

現在の景観への満足度や、改善してほしい景観、今後の景観まちづくりに関する回答を景観意識と捉え、景観まちづくりの取り組みへの参加と景観意識の間にある関係を分析する。景観まちづくりの取り組みに参加している人ほど、景観意識が高いという仮説のもとこれを検証する。

3. アンケート調査

(1) アンケート調査の概要

調査名は「みどり市の景観まちづくりに関するアンケート調査」であり、2019 年 10 月に群馬県みどり市によってみどり市景観計画策定のために実施された(表-1)。

調査対象は 18 歳以上の市民であり、2000 人を無作為抽出により選出し、郵送により調査票の回収を行った結果、回収率は 26.7%であった。主な調査項目としては、個人属性、現在の景観の満足度、景観まちづくりの方針について、景観まちづくりの取り組みの参加についてである。

(2) データの加工

居住地、景観に関する記述の情報を次のように加工し分析に使用する。

図-1 アンケート調査の概要

調査時期	2019 年 10 月
対象	18 歳以上の市民 2000 人 (無作為抽出)
回収率	26.7% (533 通)
方法	郵送による調査票の配布回収
調査項目	1)個人属性 2)現在の景観の満足度 3)景観まちづくりの方針 4)景観まちづくりの取り組みへの参加

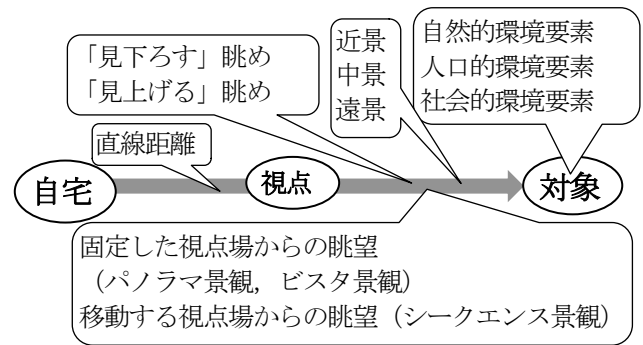


図-2 好きな景観の変数

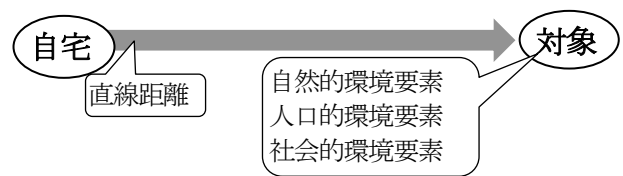


図-3 改善してほしい景観の変数

a) 地区特性

・都市計画上の区分

みどり市全域を都市計画上の区分により分類する。各町丁を、1)土地利用方針、2)DID、3)都市計画区域、4)みどり市全域の地区特性の変数を作成する。

・立地による区分

標高、最寄り駅までの直線距離にて分類する。

b) 好きな景観

「～から見る～が好き」という形で回答される好きな景観の設問を 1)自宅→視点、2)視点→対象、3)対象の 3 つに分類し、自宅から視点までの直線距離、景観の構成要素と景観把握モデルを用いてデータを一般的な形に分類していく。図-2 に変数の作成方法を示す。

c) 改善してほしい景観

「～の～を改善したい」という形で回答される改善してほしい景観の設問を 1)自宅→対象、2)対象の 2 つに分類し、自宅から対象までの直線距離、景観の構成要素と景観把握モデルを用いてデータを一般的な形に分類していく。図-3 に変数の作成方法を示す。

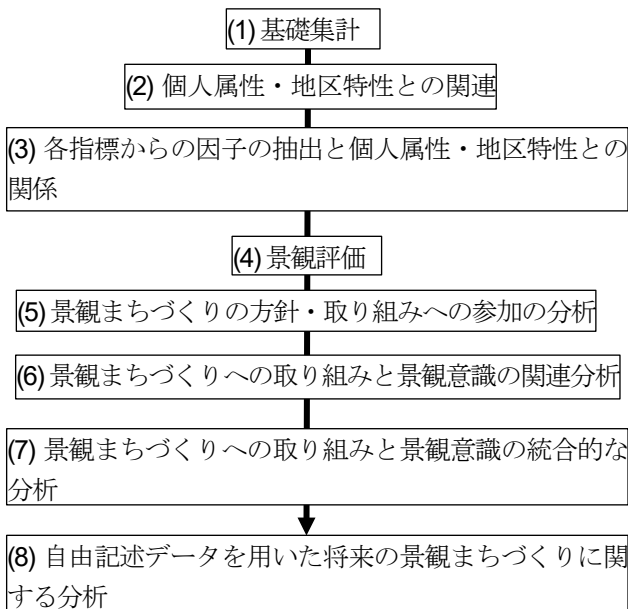


図-4 分析方法

4. 分析方法

図-4に分析方法を示す。基礎集計として加工したデータの集計を行い、次に加工データと個人属性・地区特性との関連把握、景観評価、景観まちづくりの方針・取り組みへの参加、景観まちづくりへの取り組みと景観意識の関連分析をクロス集計により行う。さらに、因子分析・数量化Ⅲ類を行い、設問ごとの特徴を把握するとともに、その後の景観まちづくりへの取り組みと景観意識の統合的な分析である共分散構造分析に繋げる。最後に、自由記述欄と個人属性との関係を把握するためにテキスト分析を行う。

5. 分析結果

(1) 基礎集計

好きな景観、改善してほしい景観の基礎的な集計を行う。

a) 好きな景観

図-5、図-6、図-7、図-8に好きな景観の分析結果を示す。好きな景観の集計を行った結果、自然的環境要素、近景、「見上げる」眺め、パノラマ景観に分類される景観を好む人が最も多いことが分かった。具体的には、「鹿の川沼公園」から見る「桜・桜並木」が好きとの回答が最も多かった。群馬県みどり市にあるわたらせ渓谷鉄道から見る景色を好むという回答も多かった。

b) 改善してほしい景観

図-9に改善してほしい景観の分類結果を示す。改善してほしいとして回答された景観には人工的環境要素に分類される景観が最も多いことが分かった。

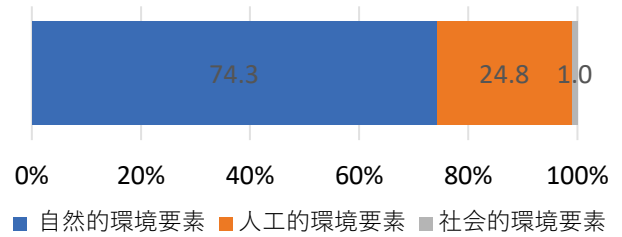


図-5 好きな景観 (景観構成要素)

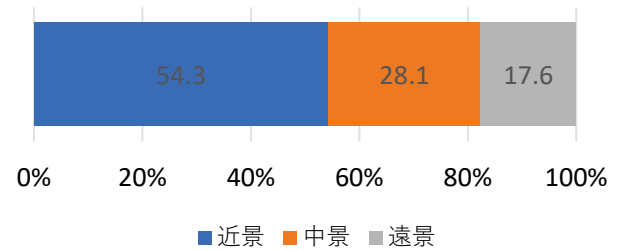


図-6 好きな景観 (近景, 中景, 遠景)

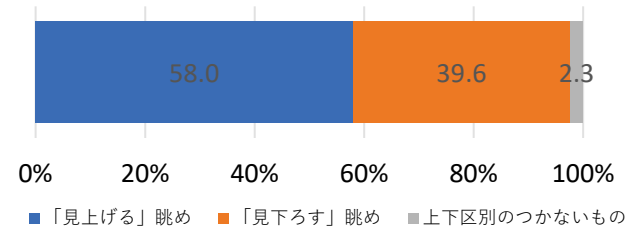


図-7 好きな景観 (「見上げる」眺め, 「見下ろす」眺め)

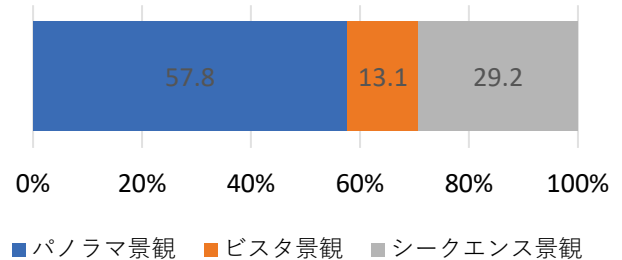


図-8 好きな景観 (パノラマ, ビスタ, シークエンス)

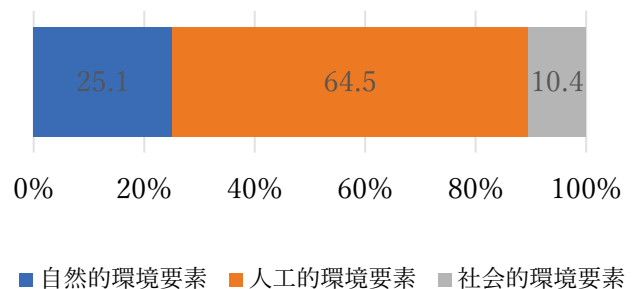


図-9 改善してほしい景観 (景観構成要素)

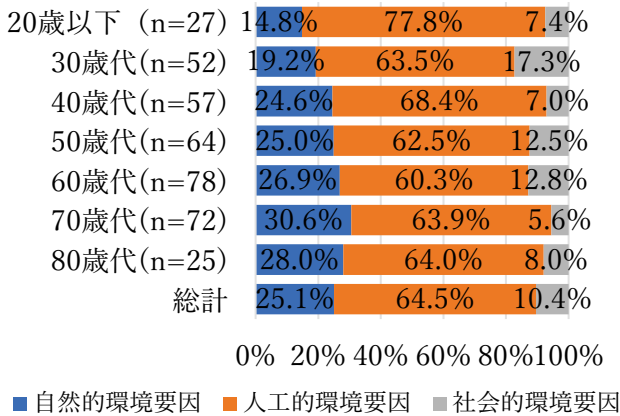


図-10 年齢階層別の改善してほしい景観 (景観構成要素)

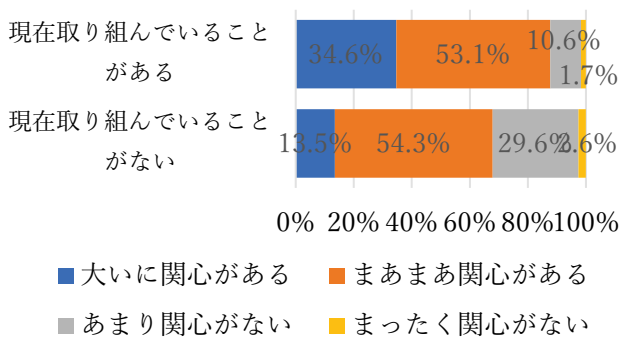


図-11 景観まちづくりへの取り組み有無別の景観への関心

(2) 個人属性と改善してほしい景観の関連

個人属性・地区特性でクロス集計を行う。性別による差異は見られなかったが、年齢が高いほど自然的環境要

因に対して改善を望んでいる人が多いことが分かった (図-10)。

(3) 景観まちづくりの方針・取り組みへの参加の分析

現在、景観まちづくりに取り組んでいると回答している人は、景観への関心があると回答している人の割合が8割を超える結果となった (図-11)。

6. おわりに

本研究では、景観まちづくりの取り組みに参加している人ほど、景観意識が高いという仮説を立証することを目的としていた。その結果、現在景観まちづくりに取り組んでいる人は、景観への関心度が高いことが分かった。

今後はより詳細に分析を進めるとともに、好きな景観、改善してほしい景観に関して、アンケート調査で分かることのみ分析となっているため、更に現地調査を行い、緑視率などのより詳細な景観分類をする。

参考文献

- 1) 国土交通省 都市・地域整備局 景観室：協働による魅力的な景観まちづくりのために
- 2) 西村幸夫,中島直人：景観まちづくりの課題と展開, 「都市+デザイン」25号 (巻頭論文)
- 3) 鈴木春菜,藤井聡：地域愛着が地域への協力的行動に及ぼす影響に関する研究,土木計画学研究・論文集,Vol.25,no.2,2008

(Received ??? ?, ????)
(Accepted ??? ?, ????)

THE RELATIONSHIP BETWEEN PARTICIPATION IN LANDSCAPE CITY PLANNING EFFORTS AND LANDSCAPE AWARENESS

Kaho MACHINO, Tetsuo MORITA and Ryotaro KINOSHITA

The Ministry of Land, Infrastructure, Transport, and Tourism (MLIT) says that "people can be attached to and proud of their towns and lifestyles". The increase in community attachment is thought to help prevent the decline in the local population. Existing studies have shown that the more people are attached to their community, the more cooperative they are in community activities. This study will test the hypothesis that people who participate in landscape community planning, a community activity, have a higher awareness of landscape.

The target area of the study is Midori-city, Gunma Prefecture, and the analysis will be conducted using the "Questionnaire Survey on Landscape Community Planning in Midori-city". Of those who responded that they are currently engaged in such activities and that they have a high intention to participate, the percentage of those who are interested in landscaping exceeded 80%. Therefore, it was found that the higher the intention to participate in landscape city planning and the more people participate in landscape city planning, the higher the level of interest in landscape.